

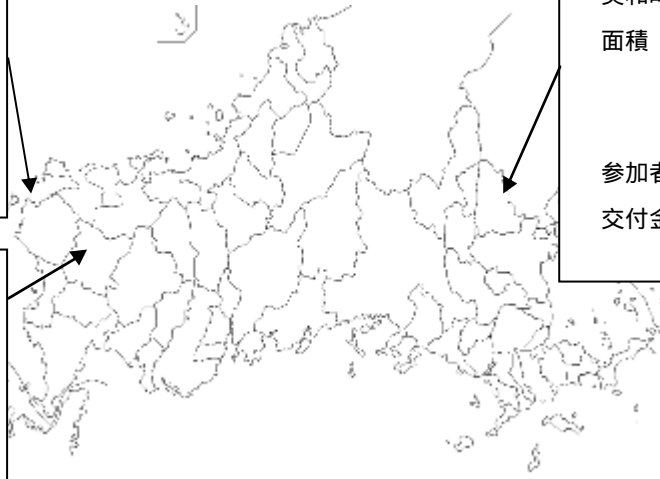
集落協定 かわら版 (第5号)

(平成15年6月30日 山口県農村振興課)

豊北町 細井協定
面積 田/急傾斜 0.2ha
田/緩傾斜 10.6ha
参加者 16人
交付金 90万円

豊田町 稲見中協定
面積 田/急傾斜 7.0ha
田/緩傾斜 10.7ha
参加者 16人
交付金 233万円

美和町 長野協定
面積 田/急傾斜 4.3ha
田/緩傾斜 6.0ha
畑/緩傾斜 0.4ha
参加者 55人
交付金 139万円



共同でモチ米づくり

・・・美和町長野(ながの)協定・・・

美和町長野協定は、美和町役場の近く、南向きの小高い場所にあります。

坂本豊さん(68)と西洋二さん(60)のお二人から活動状況の話を伺いました。

長野集落は、昔は畑作中心の農業だったと聞きましたが。

「ここは山道に入る途中の小高いところにあるのでため池のわずかな水しかありませんでした。桑畑が中心でした。」

「昭和6年に近くの生見(いきみ)川からの50mを揚水する事業が完成して、今の長野があるんです。近くに石碑も立っています。先人の苦労のお陰ですね。」

ポンプで揚水しているとは知りませんでした。

「揚水のおかげで桑畑が水田に変わりました。そのかわり、維持経費として10aあたり15000円の水代がかかります。」

経費を節減するのはなかなか難しく、先日も揚水管の補修があったんですよ。個人の負担を軽くするために交付金から水利組合に補助をしています。」



(代表の坂本さん(右)西さん(左) 揚水事業の記念石碑の前で)

集落協定ではどのような活動をされていますか。

「水路や農道の管理の他に、休耕田の活用を進めています。人目に付きやすいところではコスモスやひまわりなどを植え、人目に付きにくい所は草刈をします。昨年は

モチ米を40aで作り、お餅にして八幡宮の秋の祭典でまきました。また、余ったモチ米は希望者に配布しました。荒廃地を出さずに、参加者にも喜ばれたので良かったと思っています。」

農地管理と実益を兼ねた取組ですね。

「最近モチ米を自分で栽培する人が少なくなっていましたからね。単に草刈りをするだけでなく、実益を兼ねた活動だとみんなの関心も自然と高まりますね。」

その他にも活動があるそうですね。

「今年は、草刈用のモーアを購入しました。草刈りの省力化を進めたいと思っています。それから、荒廃地を出してはいけなないので、受委託の仲介を行うこともあるんですよ。おかげで、荒廃地は見あたりませんよ。」

地域の皆さんの協力は良さそうですね。

「やはり、水の確保にお互い協力してきた歴史や、圃場整備(平成10~11年度)に取り組んだことが関係していると思います。圃場整備は取り組むかどうか何年も話し合いをしましたからね。」

「この制度は、初めは5年間ということで世話係がなかなか決まらなかったのですが、みんなで役割分担したのも良かったと思います。」

将来に向けて抱負がありますか。

「高齢化が進んでいますが長野はまだまだ人は多いほうです。御輿の担ぎ手に20人必要なんですが、大丈夫です。」

「ただ将来に対する不安もあります。小学生が昔に比べて大幅に少なくなっています。最近、旧生見小学校で子供神楽の伝承活動が始まったので、協定も活動を応援することにしました。住むだけの地域ではな

く、よりよく暮らせるように、みんなで取り組んでいきたいですね。」

揚水事業を行った先人の苦勞、圃場整備への取組、花やモチ米づくりを通じた地域の融和。住みたくなる地域でした(田中)

麦の共同栽培に挑戦

・・・豊北町細井(ほそい)協定・・・

豊北町細井協定は、国道191号沿いにあります。地区では圃場整備を控え、今後の営農を検討していくなかで、麦の共同栽培に取り組んだとか。

その状況を、協定代表者の山縣正誠さん(55)に聞きました。

圃場整備を計画されているそうですね。

「夏から工事が始まります。完成は来年の春になります。」

圃場整備前に麦の栽培に取り組まれたと聞きましたが。

「工事中は米が作れないので、少しでも収入を得るために、町やJA、農林事務所の勧めもあって、5.3haで麦を作りました。」



(代表の山縣さん)

麦を栽培するのは始めてだったのですか。

「昭和30年代には栽培されていました

けどね。今は品種も替わっているし麦栽培のわかる人はいませんでしたよ。」

「取り組むに当たっては、効率的な栽培ができるように圃場の団地化を進めました。栽培面では麦用の機械が無いので、主な作業は「(有)ほうほくファーマーズサポート」に頼みました。」

「ほうほくファーマーズサポート」というのは？

「農作業を受けてくれる有限会社で、平成14年に設立されたんです。荒起こしは農家が行い、播種・収穫・途中の防除作業はファーマーズサポートに依頼しました。」



(収穫後の麦の圃場)

安心して栽培に取り組めたんですね

「そうですね。その他にも、排水溝の設置などは溝掘りの日程表を作って、農家は自分の圃場で作業がある日や、都合の良い日に出てきて作業を手伝うようにしたんです。」

「最終的な精算は個人毎ですが、途中の作業を共同化したりファーマーズサポートに依頼した点は良かったと思います。」

「毎月栽培管理情報が農林事務所から届くのですが、これも助かりましたね。」

協定の締結は13年からだとか。

「制度開始当初は圃場整備の話合いが

中心でしたが、お互いに協力したり助け合うような雰囲気が高まってきたので、平成13年度から集落協定に取り組むことになりました。」

コスモスをまいているそうですね。

「去年はコスモスを播きました。祭りの計画があったんですが、播くのが遅くて稲刈り時期に満開になったので結局出来ませんでした。」

「今年は稲がお休みなので、コスモス畑で祭りをしたいですね。」

圃場整備の話合いを契機に動き出した細井集落。圃場整備後の活動が期待されます。(西村)

イノシシ、シカの防護柵を設置

・・・豊田町稲見中(いなみなか)協定・・・

豊田町稲見中協定は、町中心部から北に約5kmの所にあります。

農村を騒がすイノシシ、シカの被害防止対策を行っているということで、おじゃましました。

代表の玉木保行さん(64)と、福永正春さん(65)にお話を伺いました。



(代表の玉木さん(右)と福永さん(左))

計画的に鳥獣被害対策をしていると聞きました。

「イノシシやシカの被害に悩まされていた頃に制度の話聞いたんです。いろいろな意見は出ましたが平成12年の8月下旬には、防護柵の設置を決めました。」

「それまで、個人が対策をしていましたが、5年計画で設置していくことにしたんです。」

大変早い決定ですね。それだけ、被害に悩まされていたということですね。これまでの防護柵の設置状況を教えてください。

「まず平成12年度に1600m、13～14年度に2700mを行いました。今年は700mを予定しています。」

「できるだけ早く完成させたかったので、設置の労務費はその時は払わず、役員手当以外は全額資材の購入費にあてています。」

「おかげで4年目で、予定していた箇所を設置が終了します。」

防護柵は大変頑丈に出来ていますね。

「防護柵は、一箇所壊れただけでも被害は全体に広がります。耐用年数の長いしっかりしたものをつくりたかったんです。」

「2m間隔で50cmの穴を掘ってそこに2.5mの支柱を立ててコンクリートで固定します。支柱の下のほうに波トタンと鉄のメッシュ（網）、上はネット（金網）を張っています。これなら10年は持つと思います。」

設置作業も大変ですね。

「夏の暑い時に作業を行うのは重労働です。決めるまでは意見もいろいろありましたが、決まってからは、みんなよく協力してくれています。」



（防護柵の様子）

被害は減りましたか。

「被害は無くなりました。」

「他の地区からよく見学に来られるので、困っている地域は多いんでしょうね。やはり根本的な解決策が必要だと思います。」

5年間を見通した計画的な活動が、地域の財産として残る。大変参考になりました。（西村）



～～～ 編集後記 ～～～

取材を通じて、協定毎に課題や対策に個性があることを感じました。

制度も4年目。将来を見通して、交付金の有効活用をしていきましょう。（西村）